

(様式5)

令和6年度 指定管理者年度評価シート

1 基本情報

施設名称	大阪市立児童院（児童心理治療施設）
施設所管課・担当	こども青少年局こども家庭課要保護児童グループ
条例上の設置目的	児童福祉法第43条の2に基づき児童心理治療施設を設置するもの
業務の概要	児童心理治療施設の管理運営
成果指標	①退所児童の家庭復帰後半年間の現況把握率 ②苦情解決第三者委員会による苦情解決率
目標	①100% ②100%
指定管理者名	（社福）聖家族の家
指定期間	令和3年4月1日～令和11年3月31日（8年間）
評価対象期間	令和6年度分

2 管理運営の成果・実績

成果指標	①	②
数値目標	100%	-
年度実績	100%	-
達成率	100%	-

利用状況（各年度3月1日時点）

	当年度	前年度	前年度比
利用人数	27	25	2
稼働率	96.4%	89.3%	7.1%

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	232,917,842	216,241,875	-85,337,158	入所児童数の減
	計画	318,255,000	312,472,327		
利用料金収入	実績	0	0	0	
	計画	0	0		
その他収入 （自主事業収入）	実績	37,832,484	9,335,853	37,832,484	
	計画	0	0		
合計	実績	270,750,326	225,577,728	-47,504,674	
	計画	318,255,000	312,472,327		

支出		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	208,987,614	168,663,356	208,987,614	
	計画				
管理運営費	実績	58,276,827	47,839,942	58,276,827	
	計画				
その他事業費 （自主事業支出）	実績	3,444,818	4,288,257	3,444,818	
	計画				
合計	実績	270,709,259	220,791,555	270,709,259	
	計画	0	0		

4 管理運営状況の評価

(1) 成果指標の目標達成状況

評価項目	市の評価	特記事項
①	B	自立支援担当職員を配置し、適切に対応されたことにより、目標を達成している。
②	—	対象件数はなかった。

(2) 市費の縮減

市費縮減に係る取組状況	市の評価	特記事項
児童入所施設等措置費の基準に基づき業務代行量を支出しており、市費縮減については不可能	B	

(3) 管理運営の履行状況

評価項目	市の評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービス向上		
施設の管理運営	A	施設は別所属との複合施設となっているが所管部分において、日常的な点検整備を欠かさないことで、入所者の安全に配慮されており、ビル会議などにも積極的に参画いただいている。 併せて、措置費における加算職員等、処遇向上のための職員加配に積極的に取り組んでいる点は評価できる。
施設の維持管理		
職員の配置状況		
安全管理		
市民サービスの向上	A	施設内において家族療法事業を実施し、入所児童の家族も巻き込んだ心理療法の実施に取り組むなど家族機能の回復及び生活環境調整に取り組んでいる点など評価に値する。
利用者満足度調査		
サービス向上策の実施		
事業計画の実施状況	B	児童入所施設運営として適切かつ良好である。
事業の実施状況		
施設の有効活用	B	同種別の施設や、同圏域内施設との連携を通じて職員のスキルアップに努めるとともに、地域の企業と入所児童との交流を継続して行うなど、地域との連携を積極的に図っている。
地域との連携		
他施設との連携		
社会的責任・法令遵守	B	適切かつ良好である。
勤務労働条件の確保		
個人情報保護対策		
環境への配慮		
就職困難者の雇用		

5 外部専門家意見

<p>・心理治療において、入所・通所児童だけでなく、問題の原因となることが多い保護者を含む家族全体を対象としている点は、根本的な問題解決を目指す包括的なアプローチとして、その有効性が期待できるため高く評価できる。</p> <p>・令和6年度に21件の苦情が寄せられているが、これは苦情申出窓口が形骸化しておらず、児童が不満や意見を表明できる環境が整備され、それが実際に活用されていることを示唆している。児童の声を真摯に受け止め、改善に繋げようとする姿勢が評価できる。</p> <p>・職員配置基準では医師1名とされているが、現員は常勤医師が0名であり、2名の臨時職員で対応している。児童の心身の健康をより継続かつ安定的にサポートするためには、常勤医師の配置を検討することが望ましい。</p> <p>・新型コロナウイルス感染予防対策のため、地域との恒例行事である盆踊りへの参加やクリスマス会への地域招待が見送られている。状況が許す限り、地域社会との直接的な交流活動の再開・拡充を積極的に検討し、児童の社会性を育む機会を増やすことが望ましい。</p> <p>・児童心理治療施設として、難しい条件と立地の中で運営している点は評価できる。創設時の情緒障害児短期治療施設では、おおむね13歳未満のこどもの情緒的問題を早期に発見して、早期に治療を行うとともに、通所でも治療を行うというもので、結局は「現実的には困難」であったようだが、この施設は都会の中であって今どきのこどもの心理問題に対して何か先駆的なケアの取組を期待したい。また被虐待のこどもは、親子分離を長期間ともめられることもあり、通所というよりも如何にこどもにとって施設の生活を安心・安全なものにするかが重要になってきているように思う。こどもの苦情もしっかりと出てきている点は評価でき、その内容や対応について、関心があるが、この点でも、こどものケアに尽力されていることが資料から窺える。グループ制の長所を活かしつつ、個人担当制を導入しているとのことだが、こどものケアは、職員間のコミュニケーションが活発に行われていることが大前提で、個人担当となるとその職員がストレスを抱え込まないような配慮も求められる。入所ニーズとのアンバランスは、従前から指摘されているが、他都市からの入所については、機関連携や家族調整等が難しいのではないかと推測した。3月1日付の在籍児童に中学1年生の児童がいたようだが、教育への取組について気になった。</p>

6 総合評価

評価項目	評価	所見
成果指標の目標達成	B	目標達成している。
市費の縮減	B	児童入所施設措置費を運営財源としているため、市費縮減は不可能である。
施設の設置目的の達成及びサービスの向上	A	心理治療において、保護者を含めた家族全体を対象とする包括的なアプローチは高く評価できる。また、児童の不満や意見を表明できる環境が整備されている。都会の中であって今どきのこどもの心理問題に対して何か先駆的なケアの取組を期待したい。
施設の管理運営		
市民サービスの向上		
事業計画		
施設の有効活用		
社会的責任・市の施策との整合	B	適切かつ良好である。
総合評価	B	